

かじがみかけず

鍛冶神掛図

指定種別：市指定文化財

指 定 日：平成 18 年 2 月 24 日

所 在 地：個人蔵

制 作 年：江戸時代前期頃

寸 法：軸装縦 124.5 cm 軸装横 37.1 cm 図縦 70 cm 図横 29.5 cm

鍛冶神掛図は、山崎家に伝わるもので、「ゴヒ(御日)」と称する「オシラサマ」の祭の日に「マイリの仏」と「鍛冶神掛図」を掛け、その前にオシラサマを祀ります。

鍛冶神掛図は鍛冶神図像のひとつで、東北地方に多く見られるものです。中国地方においては「金屋子神図」や「製鉄・金屋子神縁起」などがあります。主に鉄の生産地を中心に製鉄や鍛冶、鋳物師などの信仰の対象で、フイゴの働きを司る神として敬い拝礼されました。

東北地方においてはフイゴの上に三宝荒神立像が描かれるケースが多く、この掛図は中央上段のフイゴの上に三宝荒神座像が描かれています。

また、その下には鍛冶場で働く鬼の様子が描かれており、鬼のみの図も珍しいです。鬼の背後にはのぼりが立ち、のぼりには中央を始め四方を守護する諸尊の梵字が記されており、このような図柄はあまり例がありません。当時の鍛冶風景やそこから作り出される鉄製品を知るうえで貴重な資料です。

